

家庭，技術・家庭（家庭分野）

1 これからの家庭科教育について

- 自己と家庭，家庭と社会とのつながりを重視し，生涯の見通しをもって，よりよい生活を送るための能力と実践的な態度を育成する。
- 家族と家庭に関する教育と子育て理解のための体験や高齢者との交流，食育，消費の在り方，資源や環境に配慮したライフスタイルの確立を目指す指導を充実する。
- 体験から，知識と技術などを獲得し，基本的な概念などの理解を深め，実際に活用する能力と態度を育成するために，実践的・体験的な学習活動をより一層重視する。また，知識と技術などを活用して，学習や実際の生活において課題を発見し解決できる能力を育成するために，問題解決的な学習をより一層充実する。
- 学校における学習と家庭や社会における実践との結び付きに留意する。

2 各学校において取組が求められること

小学校

- 平成 22 年度の第 5 学年から新学習指導要領の内容を卒業までに履修できるよう，2 年間を見通し，各内容に適切な時数を配当した指導計画の作成に配慮すること。
 - ・ 知識・技術の習得とともに，創意工夫する能力と実践的な態度の育成を目指した題材の検討
 - ・ 教材研究と教育環境の整備
 - ・ 食育の推進（発達の段階を踏まえた学校教育全体の一貫した取組の推進）
 - ・ 指導と評価の一体化

中学校

- 平成 24 年度の全面実施を円滑に行うため，平成 22 年度入学生から新学習指導要領の内容を卒業までに履修できるよう，3 年間を見通し，各内容に適切な時数を配当した指導計画の作成に配慮すること。
 - ・ 学習指導要領改訂の理解
 - ・ 知識・技術の習得とともに，工夫し創造する能力と実践的な態度の育成を目指した題材の検討
 - ・ 教材研究と教育環境の整備
 - ・ 食育の推進（発達の段階を踏まえた学校教育全体の一貫した取組の推進）

高等学校

- 平成 25 年度入学生からの実施を円滑に行うため，学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程の編成及び各科目の年間指導計画の作成に配慮すること。
 - ・ 学習指導要領改訂の理解
 - ・ 義務教育段階から高等学校の指導内容への系統的な理解
 - ・ 生徒の興味・関心・意欲を高める題材の工夫
 - ・ 思考力・判断力・表現力を高めるための指導方法の研究

3 家庭科，技術・家庭科（家庭分野）における言語活動の充実

- ・ 衣食住など生活の中の様々な言葉を実感を伴って理解する学習活動や，自分の生活における課題を解決するために，言葉や図表などを用いて生活をよりよくする方法を考えたり，説明したりするなどの学習活動を充実させる。（小学校）
- ・ 衣食住やものづくりなどに関する実習等の結果を整理し考察する学習活動や，生活における課題を解決するために言葉や図表，概念などを用いて考えたり，説明したりするなどの学習活動を充実させる。（中学校）
- ・ 子どもや高齢者など様々な人々と触れ合い，他者とのかかわる力を高める活動，衣食住などの生活における様々な事象を言葉や概念などを用いて考察する活動，判断が必要な場面を設けて理由や根拠を論述したり適切な解決方法を探究したりする活動などを充実させる。（高等学校）

小学校 家庭科 の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

整理・整頓の仕方を考え、身の回りを快適に整えるために工夫することができる。

思考力の育成

学年 第5学年

題材名 めざせ！片付け名人

本時の目標 雑然とした文房具の状態を見直し、使いやすさを考え、自分なりに整理・整頓を工夫することができる。

学習の流れ（1時間目/全4時間） 《3時間目は家庭での実践の計画 4時間目は実践後の交流会》

言語活動の充実

言語活動の充実

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 整理・整頓について課題意識をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> 家族と一緒に使う、収納ボックスの中にあるトレーの設定にする。散らかった文房具を見て感じたことを自由に発言させる。散らかっていて使いにくそう。必要な物を探すのが大変。見た目も悪く気持ちよく過ごせない感じがする。 なぜ散らかるのか原因を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 雑然とした文房具の状態を見直し、使いやすさを自指して考え、自分なりに整理・整頓を工夫している。〔生活を創意工夫する能力〕(行動観察・発言・ワークシートの記述)
2 班ごとに文房具の整理・整頓の仕方を話し合う。 学習のめあての確認 - めざせ！片付け名人 - 整理・整とんのコツを考えよう！	<ul style="list-style-type: none"> 使ったものを元に戻さない。誰かが片付けるとしてそのままにしてある。忙しいからできない。 使いやすくするためには、どのような工夫をしたらよいか自分の考えをもたせた上で、班ごとに活動させる。工夫のポイントを板書する。 〔同じ種類の物をまとめよう。しまう位置を決めておこう。〕 	
3 班ごとに文房具の整理・整頓を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 文房具を実際に整理・整頓させる中で、いろいろな整理・整頓の工夫を見出せるようにする。 班員で話し合い工夫しながら整理・整頓を進める時、活動しない児童がいないよう「意見をまとめる」、「メモを取る」、「意見をもとに整理する」等の役割分担をさせる。ここで、不要になったトレー、筒、箱、紐等を事前に準備しておき使用してよいことを知らせる。また、トレーの出し入れを試せるよう、収納ボックスを置いておく。 	
4 整理・整頓後の文房具紹介コーナー時間をとり、他の班の整理・整頓の工夫を知る。	<ul style="list-style-type: none"> 整理、整頓を行う前に考えた工夫や、新たな工夫を発見したことについて各班でまとめさせる。また、なぜそのように工夫したのか理由と一緒に他の班に紹介させる。 	
5 多くの班が行っていた工夫や特定の班だけが行った工夫などを出し合い、そこから整理・整頓のよさをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> 紹介コーナーでメモしたことをもとに、自分たちの班と他の班との共通点・相違点を明らかにしながら、整理・整頓の工夫とそのよさをまとめられるようにする。 まとめで児童が気付いてない視点については、活動の様子や片付けた文房具を例に示して説明する。 	
6 次時への課題をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> 次時は、共有スペースである図工室をみんなで整理・整頓することを知らせる。 みんなが使いやすくなるための工夫について、家族や周りの人に聞き取りをしたり、整理・整頓に必要なと思うものを持ってきたりして、アイデアを持ち寄るようにさせる。 	

指導のポイント

実践的・体験的な活動の前に、問題点や解決方法について考えさせる

本時では、的確に思考、判断、表現できるように体験の目的を明確にするための時間をつくります。活動する前に、なぜ整理整頓をするのか、なぜいつも雑然としているのかなど、**問題点や原因に気付かせ**、その**解決方法や工夫を考えさせた上で整理・整頓をさせています。**

課題の提示

児童にとって身近な題材を取り上げると学習に意欲的に取り組みます。



感想は・・・
・使いにくそう。
・見た目が悪い。

原因は・・・
・使った物を元に戻さない。
・忙しくて片付けられない。

感じたことを出し合う

散らかっている状態を見たときの、様々な人の思いに触れさせることにより、整理・整頓の必要性に気付かせます。

原因追求

なぜこのような状態になるのかを考えることにより解決の糸口にします。

解決方法を考える

問題点を解決するために、どのように工夫するのかという目標を設定させて整理・整頓をさせます。

まず、個人で考えさせます。その後、付箋を使って、個人の意見を班で整理させます。考える過程を大切にします。



この学習で身に付けた基本的な技能を活用させるため、一般化させる

体験して気付いた方法を出し合っただけで、学習を終えるのではなく、どのような物、**どのような場所でも活用できる整理・整頓の技能**を考えさせ、次時の実践において技能を活用できるようにまとめさせることが大切です。

体験後

体験して気付いた方法

鉛筆が散らからないように、筒を使って鉛筆を立てた。
メモはよく使うので、取りやすいように手前の方に置き、しきりをつけた。
何がどこにあるか分かるように重ならないように入れる。
たくさん物があるとゆとりがないので、使う物だけを残し、取り出しやすくする。

話し合い後

話し合いで整理する

〔片付け名人の技 5つのポイント〕
何がどこにあるか分かるように箱などに中身を書いておく。
よく使うものは、すぐ取り出せるように取り出しやすい場所に置く。
種類別、大きさ・形別に分ける。
物が混在しないように、仕切りなどを付ける。
空間を有効に利用する。

新学習指導要領では

生活をよりよくする方法を考えたり、説明したりするなどの学習活動を充実させることを重視

今回の改訂では、言葉や図表、概念などを用いて、自分の課題に基づき生活をよりよくする方法を考え、**実習など実践的・体験的な活動をしたことについて説明したり、話し合ったりするなどの学習活動を充実**するように配慮することが求められています。

本時の学習活動2では、実践的・体験的な活動前に解決方法を考えさせることで**考える視点**を与えます。また、学習活動4では、整理・整頓しながら考えた工夫について理由をつけて発表させることで、**なぜそうするのか**ということに気付かせます。まとめでは、今回の実践的・体験的な活動で身に付けた技能を日常的な**家庭生活で活用できる力**に変えていきます。

中学校 技術・家庭科(家庭分野)の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

食生活の問題点を改善するために献立を工夫することができる。

思考力,判断力の育成

学年 第2学年

題材名 これからの食生活

本時の目標 自分の食事内容をよりよくするために、自分なりに改善した献立を再検討し、さらに工夫して改善を加えることができる。

学習の流れ(3時間目/全4時間)

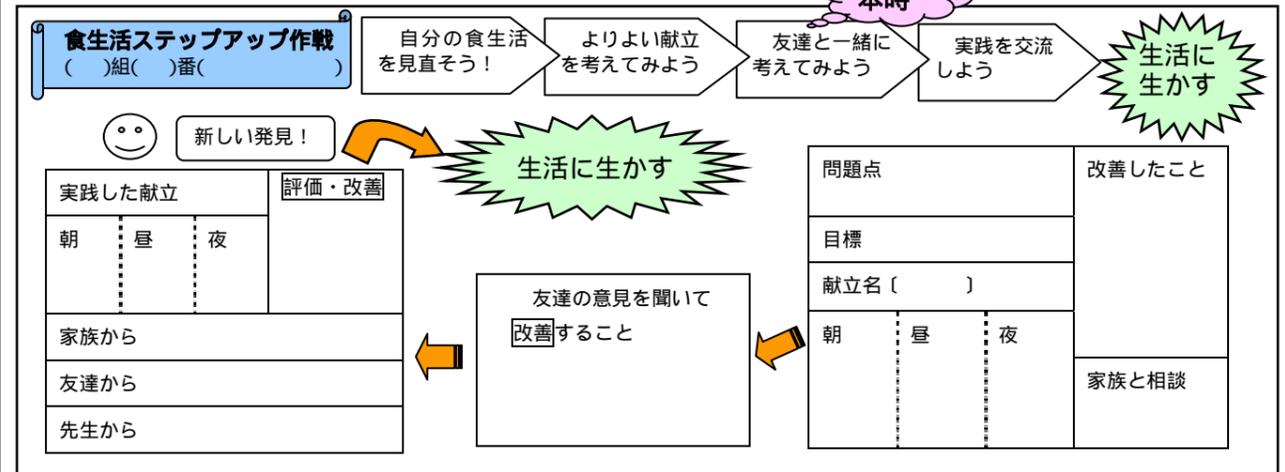
学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 前時までの学習を振り返る。 ワークシートの記入内容を確認する。	・「自分の食事調べ」から課題(問題点)の発見,改善方法,改善した献立,家族から聞いてきた意見などがワークシートで整理できているか確認させる。	
2 本時の内容を確認する。	実践に向けて,献立の再検討をしよう。〔相互評価をする。〕	
3 班内で自分なりに改善した献立を説明し合う。 説明のポイントをワークシートで確認する。	<p>・改善の根拠を明らかにして,順序立てて相手に伝えることを指示する。ワークシートや自分の調べた資料を使い説明させる。</p> <p>「自分の食事調べ」から気付いた問題点</p> <p>↓</p> <p>献立作成に向けての目標設定</p> <p>↓</p> <p>課題(問題点)解決のための改善点(家族の意見も含めて)</p>	
4 互いの献立を評価する。 評価する観点を確認する。 ワークシート(改善した献立)を見たり,説明を聞いたたりして,評価やアドバイスを相互評価用紙に記入し,説明する。	<p>・相互評価用紙に記入することを確認する。発表によりこれまでの既習事項を含め,献立に必要な観点を確認する。観点到って話し合いをさせる。</p> <p>【観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生の1日に必要な食品群別摂取量のめやすを満たす計画になっているか。 ・栄養のバランスを考えた食品の組み合わせを工夫しているか。 ・主食,主菜,副菜,主食の組み合わせになっているか。 ・旬の食材や地域の食材を取り入れているか。 ・その他〔家族の好み,色取り など〕 	<p>・自分なりに改善した献立を説明し,相互評価により実践に向けての献立の再検討し,さらに工夫して改善することができる。〔生活を工夫し創造する能力〕(ワークシート,相互評価表)</p>
5 改善した献立の見直しをする。 相互評価用紙を参考に見直しを行う。	<p>・他の生徒からの相互評価や意見メモを整理・検討し,家庭で実践できるように変更や付け加えなどを行わせる。</p>	
6 本時のまとめと次時の確認をする。	<p>・本時の目標が達成できているか評価させる。</p> <p>・家庭実践の手順(家族に相談 実践 評価・反省 次の課題)を確認し,次時に実践報告会を行うことを伝える。</p>	

言語活動の充実

指導のポイント

考えの根拠を整理できるワークシートを作成し,書く活動を取り入れる

自分の献立の何が問題なのか分析させ,どのように検討し,何を根拠として考えたのか書いて整理させます。また,解決する過程で使用した資料は,図表などを用いて分かりやすくまとめさせ,蓄積させておきましょう。



考えや意見を出し合い,思考を深めるための話し合いを設定する

話し合う時に,「献立について話し合いましょう」というだけの指示になり,気付いたことを出し合うだけの話し合い活動に終わることがあった。

工夫

話し合いの「目的」と「観点」を,話し合う前に生徒に伝えて始める。

生徒に,話し合いの目的「自分なりに考えた献立を再検討し,よりよく改善すること」を明確にもたせ,観点ごとに献立の良さを評価したり,アドバイスを伝えたりするようにします。観点は教科のねらいを達成するものであることに留意しましょう。



【グループにおける話し合いの例】

司会: 話し合いの目的は,「自分なりに考えた献立をみんなで意見を出し合い再検討し,よりよい献立にすることです。それでは,一つの観点である1日に必要な食品群別摂取量は達成されているかどうかについて確認します。みなさん達成されていますか?それでは,二つの観点である栄養のバランスについて検討していきたいです。まず,さんの献立についてどうですか?

B: さんの献立は,無機質の中でも鉄分は十分ですが,カルシウムが不足しているのではないかと思います。大根のすりおろしなどにしらす干しを入れたり,昼食に牛乳を1本入れたりするとよくなると思います。

新学習指導要領では

言葉や図表などを用いて生活をよりよくする方法を考えたり,説明したりするなどの学習活動を充実させることを重視

各分野の指導において配慮することの一つとして,生活における課題を解決するために言葉や図表,概念などを用いて考えたり,説明したりするなどの学習活動を充実することが示されています。

本時の学習活動3では,解決の根拠を示したワークシートや資料を使い説明します。また,学習活動4では,新たな情報や知識,献立をさらによくするための示唆を得ることができます。このような指導を充実させることで,課題に対して様々な角度から考える思考力,考えたことを基に解決を図る判断力,判断した結果を的確に創造的に表すことのできる表現力がはぐくまれます。

高等学校 家庭科 の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

- 保育体験実習での子どもとのかかわりを通じて、子どもを育てる側からの自分の考えをまとめ、発表することができる。

思考力、表現力の育成

- 科目 家庭総合
- 学年 第1学年
- 単元名 子どもの発達と生活
- 本時の目標 保育体験実習での子どもとのかかわりを基に、幼児期における発達プロセスを考え、子どもを育てる側からの自分の考えをまとめることができる。
- 学習の流れ (4時間目/全6時間)

学習活動	指導上の留意事項	評価規準 (評価方法)
1 本時の学習内容を確認する。 ○ 保育体験実習を行った保育所の年齢別クラスの特徴について、各班のまとめを簡潔に紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> ・保育体験実習の気付き・感想の中から、自分が特に取りあげたい内容について発表するよう、前時に指示しておく。 ・生徒が提出した「保育実習の記録」をまとめたワークシートを提示する。 	
2 班内で、保育体験実習を担当した子どもとの対応で「困ったこと」「嬉しかったこと(感心したこと)」を話し合い、整理する。 ○ 教師が用意した、発表用模造紙の表に整理する。 ○ 表に整理した内容を基に、子どもを育てる側から考え、それぞれの具体的な手立てについてまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・保育体験実習の各クラスでの様子を写真で提示し、子どもたちの様子を思い起こさせる。 ・子どもとの対応で「困ったこと」を解決するためには「何が問題なのか?」「子どもを育てる側から自分はどうのように行動したらよいか?」また、「嬉しかったこと(感心したこと)」については「なぜ子どもはできたのだろう?」「さらに伸びるために何が必要だろうか?」を真剣に考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期における発達プロセスを考え、保育体験実習での子どもとのかかわりを基に、子どもを育てる側からの自分の考えを他者へ伝え、意見を共有し、発表することができる。 [思考・判断・表現] (行動観察、発言、ワークシートの記述)
3 各班のまとめを発表する。 ○ 1歳児のクラスを担当した班から順に、聞き手に分かりやすく発表する。 ○ 2~3人が全体で説明する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にはない見方、考え方があれば、記録をさせる。 ・発表後に、幼児期の発達プロセスと保育のキーワードを提示する。 	
4 本時のまとめと次時の予告。 ○ 本時の学習を振り返り、次時までの課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習目標に対する取組状況を評価する。 	

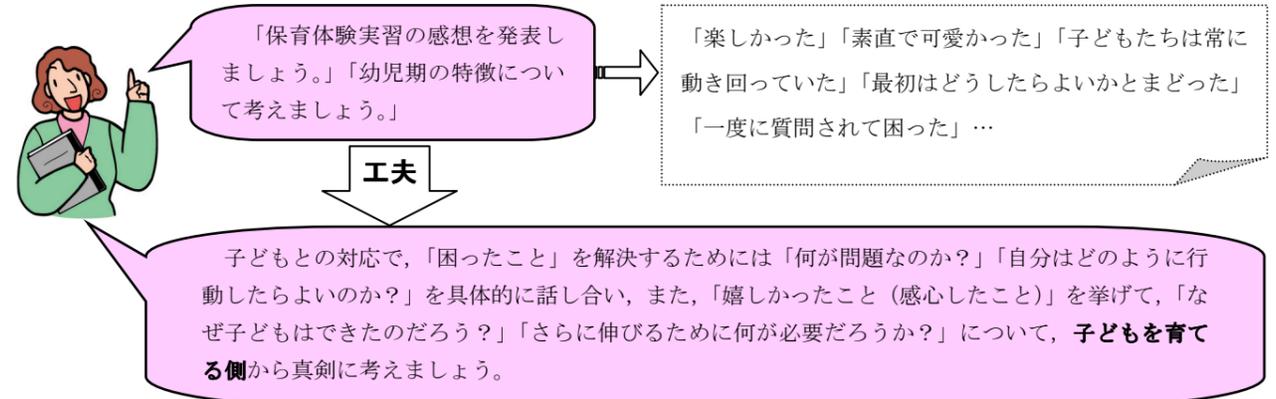
言語活動の充実

指導のポイント

題材構成の工夫をする

■ 学習活動2の「保育体験実習」などの漠然とした感想について、生徒は、「楽しかった」「可愛かった」などといった印象や自分の立場からの感想によるものとなりやすく、教師のねらいを達成できないこともあります。

そこで、教師は事前に生徒の気付きや感想を整理し、話し合い活動での問いを工夫し、「何が問題か?」「自分はどうするか?」「子どもを育てる側からどのように行動したらよいか?」という考える視点を具体的に示してみるとよいでしょう。



深く考え、探求する楽しさや手ごたえのあるワークシートを活用する

■ ひとりで考える場面と仲間と考える出し合い聞き合う場面の両方を螺旋系につなげ、そこで発見したり共有したりすることが次のステップで生かされるとともに、考える楽しさや手ごたえのあるワークシートを活用しましょう。

〔例〕

①	子どもとの対応で困ったことは何か。	→ [
②	子どもの気持ちを考えてみよう。	→ [
③	なぜ困ったのか?	→ [
④	どのように行動したらよいか?	→ [
	

新学習指導要領では

実践的・体験的な活動で、人々と触れ合い、他者とのかかわることを重視

- 今回の改訂では、「各学科に共通する各教科 家庭」の内容の取扱いに当たっては、「子どもや高齢者など様々な人々と触れ合い、他者とのかかわる力を高める活動、衣食住などの生活における様々な事象を言葉や概念などを用いて考察する活動、判断が必要な場面を設けて理由や根拠を論述したり適切な解決方法を探究したりする活動」などを充実すること。」が示されています。
- 本事例では、保育体験学習での子どもとのかかわりを通じて、自分の考えをまとめ、話し合い、発表させます。他者との対話を通して考えを明確にし、自己を表現し、あるいは他者を理解し、他者と意見を共有し、互いの考えを深めたりする力を育成することができます。